

かわら
町内の河原にいる珍しいテントウムシ

(写真・文 太田祥作)

アイヌテントウ

(学名：Coccinella ainu)

ココノホシテントウ

(学名：Coccinella explanata)

【コウチュウ目テントウムシ科】



▲ アイヌテントウの交尾
(大倉地区の伊南川にて撮影)

▲ ココノホシテントウ (叶津川にて撮影)

只見町内の河原は珍しい生き物の宝庫です。ユビソヤナギはその代表ですが、他にもヒゲナガヒナバッタやカワラバッタ、アイヌハンミョウなど、自然度の高い河原を好む種が見られます。今回は、河原のテントウムシを取り上げます。

アイヌテントウとココノホシテントウは、どちらも赤い鞘翅に黒い斑点が特徴のテントウムシです。身近なナナホシテントウとよく間違えられるのですが、斑点(星)の数で見分けることができ、これら3種の識別点は次のようになっています。

〈ナナホシテントウ：7星/アイヌテントウ：11星/ココノホシテントウ：9星〉

また、これら3種の中ではアイヌが最も小型で、中間がココノホシ、大型がナナホシとなっています。和名は、アイヌは北海道のアイヌ、ココノホシは星の数に由来します。ナナホシがどこにでも見られる普通種であるのに対して、アイヌとココノホシは河原や海岸を好み、町内では伊南川本流や黒谷川、叶津川など、大小の石がごろごろした河原に限って生息しています。アブラムシ類を餌とし、生息地ではよくカワラヨモギについています。また、アイヌの場合一カ所あたりの個体数が多く、集団化する傾向にあるようです。

全国的には、アイヌ・ココノホシともに局地的な分布を示す希少種です。これらのテントウムシの存在は、只見の河原環境が良好であることを指標するものと言えるでしょう。

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター(電話0241-72-8355)までお問い合わせください。

企画展「ブナ林の木に生かされる 雪国のブナを極めるⅡ」

会期：2024年11月9日(土)～2025年6月30日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー